

ビバリー・モーニング25-1:年次即応演習を実施 Beverly Morning 25-1: Yokota executes annual readiness exercise

November 1, 2024

By Senior Airman Manuel G. Zamora
374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地で10月18日から25日にかけて、演習「ビバリー・モーニング25-1」が実施された。

この演習では、第374空輸航空団とテナント部隊が、2週間にわたる高強度の模擬作戦を行い、現実的かつ厳しい状況下で重要な展開機能を実行する空兵の能力を試した。

第374装備即応中隊展開・配置小隊長ジェイソン・キャシー大尉は、「ビバリー・モーニングでは、現実には有事が起こった際に用いる手順をリハーサルできる。現実の状況下では、練習をする余地はない。この演習は、プレッシャー下での任務遂行に万全を期し、我々の能力を押し上げるものだ」と話した。

今回の演習では、2つの重要な分野である人員展開と貨物展開の機能に重点が置かれた。これらは作戦の展開を成功させるバックボーンとなる。第374装備即応中隊と第730航空機動中隊の空兵は、貨物を綿密に準備し確認した後、監査を受けるために貨物ヤードに輸送した。同時に、隊員は部隊の展開管理官と協力し、模擬の展開地への出発前と到着後の準備を整え、必要な記録の作成を完了した。

第374装備即応中隊ロジスティック計画担当官アリソン・ロベラー等空兵は、「ビバリー・モーニングは、貨物の準備から航空機への積み込みまで、展開の全ての過程をシミュレーションする機会を提供している。これによって、空兵たちはいつでも展開できる態勢を維持できる」と説明した。

演習のハイライトの一つは、第730航空機動中隊と合同で実施した監査だった。この監査では、模擬展開用のC-130Jスーパーハーキュリーズに積み込む前に、貨物が空輸基準を満たしているかの確認が行われた。同時に、展開する人員には、医療ブリーフィングや準備チェック、装備確認が行われるなど、前方拠点に展開する過程がシミュレーションされた。

初めの4日間で、第374空輸航空団は190人以上の人員を展開し、計68万ポンド(約308トン)の貨物を105単位に分け、35回の合同監査を行った。さらに人員計約730人と475ショートトンの貨物を展開し、実際の飛行を31回、模擬飛行を19回遂行した。

第730航空機動中隊フリートサービス監督官ジョー・マルティネス・シルバ軍曹は、「演習の目標は、新任の合同監査官の技量を高め、ユーザーに貨物の正しい準備方法を指導することだ。監査では安全が最優先のため、作業の迅速性だけでなく安全に行うことに徹底した」と述べた。

「ビバリー・モーニング」は、横田基地がインド太平洋地域の主要な空輸拠点として果たす重要な役割を強調するとともに、即応態勢を強化し、米国の同盟国への支援を強化するものである。このような定期的な訓練や「ビバリー・モーニング」のような演習によって、変化し続ける世界情勢の課題に対応できる空兵の態勢が維持できる。

キャシー大尉は、「部隊が一体となり、厳しい訓練や長時間にわたる状況に適應する姿に感銘を受けた。空兵たちがリアルタイムで問題を解決する様子を見てみると、チーム横田はいつでもどこでもどんな有事が発生しようとも対応できると確信している」と語った。

